

日本聖公会 川越基督教会

資料委員会 便り

ARCHIVES NEWS

第14号
2025年
9月7日
発行

聖公会「川越女学校」について

元川越女子高校教諭 野口 孝

私は以前川越女子高校で日本史を担当し、戦前の川越高等女学校にまつわる事を新聞形式にした「川女歴史探報」というものを作って、授業で使ってきました。「川女の始まり」もテーマの1つで、川女の歴史について研究を進めていた故奥雅臣氏が、川越女子高校の旧職員名簿の町立時代の欄に、ミス・ヘーウッドという聖公会の女性宣教師の名前が記されているということ、また聖公会が創設した川越女学校という学校が、町立川越高等女学校が設立される前にあったということを指摘していました。

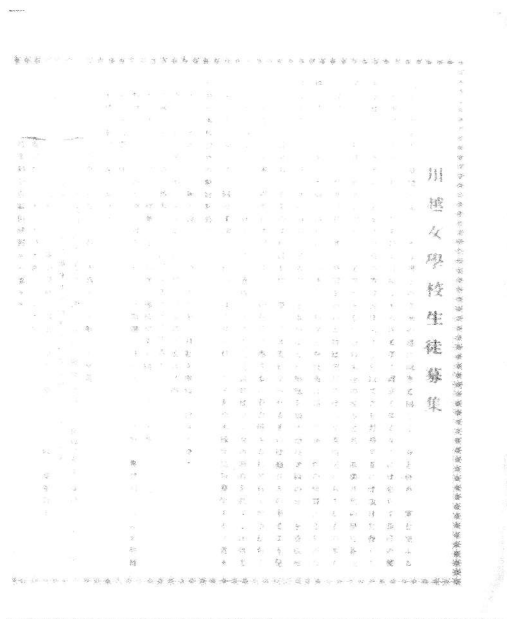
川越女学校とはどういう学校で、町立川越高等女学校と何か繋がりがあるのだろうかと考えていたところ、当時川女の同窓会長だった鈴木美恵子氏から、川越女学校の資料を見る機会のご案内をいただきました。鈴木氏は聖公会の初雁幼稚園の保護者代表を務められ、ベーリ・ドゥエル氏とも懇意ということで、2018年12月頃に歴史資料委員会にお邪魔して、「川越女学校生徒募集」チラシや川越女学校「入学申請書」を拝見しました。

「生徒募集」チラシには、まず設立の趣意として「(裁縫などの)技術に偏重」ではなく、「其の品性の修養」を重んじた徳技兼備の婦女を養成せんが為に設立」と記され、修業年限3年で高等女学校卒業と同一の学力を身につける普通教育



を施す女学校を目指したことが窺えます。次に「設立賛助者」として48名の名が掲載されていますが、当時の川越及び近在の政、財、官の有力者が名を連ねていることは大変興味深いものでした。そこには当時の司祭田井正一氏の女学校にか

ける強い思いと、それを実現するために川越の有力者にその必要性を説いて回った様子が伺えますが、そのような中で、町長で教育に深い理解のある岡田秋業氏の存在が大きかったと思います。最近山本氏から伺ったことですが、岡田氏が設立した桜園女学校は自宅を開放したもので、その建物が川越女学校と初雁幼稚園につながるということでした。また今年5月開催の「礼拝堂見学会」での展示「川越に吹いた西洋の風」で、教会の伝道師だった駒野義夫氏の日記が展示され、そこにミス・ヘーウッドの来日にあたっての歓迎会で、岡田氏が古武士の鎧甲を身につけて舞いを披露するという記述がありました。岡田氏と教会との深い関係が伺えます。



次に拝見したのが、川越女学校の入学申請書です。(左下図)

これを町立川越高等女学校の1回生の名簿と比較すると、3名の生徒が確認されたのです。父親はそれぞれ喜多欽一郎、船津長喜、綾部利右衛門で、いずれも川越女学校設立の賛同者に名を連ねた地域有力者です。特に喜多氏は川越町学務委員を務めており、町立川越高等女学校の設立にも関わっていました。聖公会の川越女学校と町立川越高等女学校の繋がりが見えてきます。

また「ヘーウッドの手記」を拝見することができました。川越高等女学校との関係を窺わせる記述はありませんでしたが、キリスト教会が明治時代の日本社会でどのように活動したのか、そして住民はキリスト教会に対してどのように接していたか、具体的な出来事を通じて知ることができて、とても興味深いものでした。

これらをまとめたのが「川女歴史探報」18号で、2019年5月31日に発行しました。(前ページ参照)

そして川越女学校を川越高等女学校の前史として位置づけて、川越高等女学校の通史をまとめた冊子が間もなく出来上がります。

「Japan Records」って何？ ～アメリカ聖公会から日本聖公会へ 寄付された貴重資料～

ドウエル・ベリー

1887年にアメリカやイギリスの各聖公会の力も得て、日本聖公会の組織は設立されました。100年の間に移り変わりが多くて、海外からの宣教師、執事、司祭、主教などが多い時代から日本人中心の組織になってきました。100周年記念に1987年

にアメリカ聖公会の文書館から日本聖公会とその前身と関連のある資料のマイクロフィルムを寄付しました。アメリカ聖公会のウィリアムズ主教は1859年に初めて日本へ来た頃から100年間位の歴史資料がそのマイクロフィルム40ロールほ

どに入っています。研究者がより簡単に活用できるようにその膨大な資料の簿冊や目録を用意するために日本聖公会管区事務局が立教学院に委託しました。その準備は 1997 年頃に完成されました。

「Japan Records」(以下 JR) の目録は立教学院史資料センターで閲覧ができます。約 300 人の名前は載っています。日本人の他に日本聖公会とその前身の組織と関わりがあったアメリカ聖公会の方々は多いです。川越キリスト教会の関係者の名前の 1 部はマキム主教や田井正一司祭やアメリカから来た宣教師などです。

同センターに 380 冊ほどの簿冊が用意されています。それは JR マイクロフィルム 40 ロール分が全部コピーして簿冊にまとまっているものです。縦で並べれば約 13 メートルの長さになります。

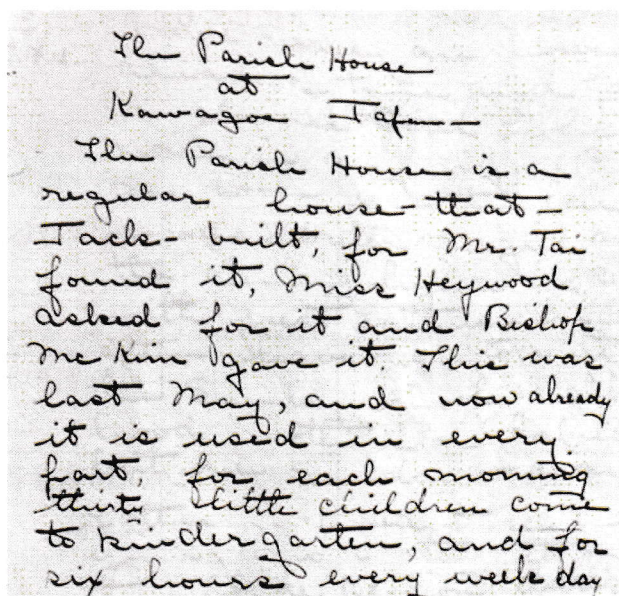
JR の資料は原則として英語で書かれています。資料が古いほど手書きが多いです。それを書いた一人ひとりの書く癖が少々違いますので、内容を理解するために先ずその人の書いた字に慣れる必要があります。

JR の資料を閲覧するために立教大学池袋キャンパス構内の立教学院史資料センターへ予約する必要があります。1 回目の訪問は JR の目録を見せてもらうためになります。見たい資料が確認したら、2 回目以降の訪問は日時予約のほかにその見たい資料の指定する事が必要です。

JR を読みながら川越キリスト教会の歴史を少しずつより深く理解ができる様になっている傾向

であると思います。資料例を 1 つ紹介したいと思います：

アプタン宣教師は「The Parish House at Kawagoe」という原稿(下図)は川越での活動の紹介や募金のために 1908 年頃アメリカ聖公会伝道局へ送って、季刊誌に載って欲しかった様です。原稿を読むと「Parish House」は教会活動館のような意味がある様です。その建物は教区が買ってもらって主な利用者は平日幼稚園生が 30 人(1 階)や裁縫学校生は数人(2 階)、また日曜学校生は 100 人(全館)です。川越のどこにあったか詳しく分からないが 1908 年までに中原町であった柵檀幼稚園の事でしょうか。



資料名：1908 年頃「The Parish House at Kawagoe」

1 ページ目、15-3-146 Upton, Elizabeth、「Japan Records」、立教学院の学院史資料センター蔵

歴史資料委員会の活動の紹介

資料の閲覧が誰でも簡単にできることを目標に

サムエル 小林史一

1878 年の川越での宣教開始前後から現在までの約 150 年間にわたる様々な記録や資料を、教会や歴代の司祭、信徒、幼稚園、その他の方々が保

管されてきました。その数は膨大なものになります。ただし保管状態があまり好ましくない状態に置かれたものもあり、また散逸の危険性もありま

した。

記録や資料には川越教会の歴史のみならず、聖公会全体や川越市にとっても大変貴重な資料もあります。昔の行事の記録や今は逝去されてしまった方々が書いた文章など、懐かしいものも数多くあります。

そこで、2015 年より歴史資料委員会では、その記録、資料を整理し、アーカイブズとして活用し、未来につなげるための活動を行っています。

現在、全部ではありませんが多数の資料は、項目別に分類整理を終えてリスト化してあります。リストは検索しやすいように、資料の内容をタイトル化し、年月日、タイプ打ちか手書きか、著者・編集者、人物をキーワード化してあります。

【資料目録 一部抜粋】

題 名	年月日	著者・編集者	人物 1	人物 2	人物 3
セミナー・キャンプ ワークブック	1967/3/14	北関東教区 大学生会	大久保直彦 主教	高野晃一司祭	興石勇司祭
初雁幼稚園園舎図面	1965/11/7				
主の祈りの世界を たずねて	2002/3/17	司祭金子功			
鳶の教会から 創刊号	1968/12/24	川越基督教会 文書部	松平惟太郎	西山茂	八戸功

現在、資料を活用しやすい形のデジタル化を進めています。

デジタル化（光学スキャナーで PDF 化）された資料は、Dropbox というソフトウェアを活用しインターネット（クラウド）上で保管しています。

（セキュリティ性は高く、外部に漏れる恐れはほとんどありません）

デジタル化された資料は、信徒の皆さん（許可された方のみ閲覧が可能で、一般の方が見ることはできません）がご自身のパソコンやスマートフォンで見ることができる準備を進めています。（なお、公開にあたっては、個人情報や教会関連の部外秘情報は限定された方のみしか閲覧できません）

閲覧するには操作手順の説明が必要ですのでお気軽に委員会にお問い合わせください。

最終的には利便性を高めるため、教会の HP 上で簡単に検索し閲覧できることを目指しています。

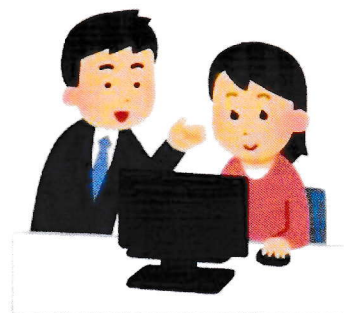
【利用例】

（1）「こかげのうたごえ（夏期学校生徒作品集）」に祖母の作品があると本人から聞いたが、その作品を読みたい。おそらく、1956 年ごろだそうだと。⇒「こかげのうたごえ」というキーワードと年号で作品を見つけることができます。また、おばあ様のお名前でも検索できます。

（2）2002 年の「日本聖公会北関東教区第 65 回（定期）教区会決議録」を読みたい。⇒見つけて読むことができます。

（3）1977 年から 3 年間日曜学校に通っていたが、そのころ発行していた「ひかりの子」に私の書いた文章があったはず。仲間の文章も一緒に読み直したい。

⇒見つけて読むことができます。



歴史資料委員会より

礼拝堂見学会

春、秋の教会行事となった「礼拝堂見学会」も第7回を迎え、5月の連休に開催されました。



今回は「川越に吹いた西洋の風」をテーマに、教会の草創期に纏わる資料を中心に、市内在住の郷土史家が所有の「入間県、切支丹禁令の高札」も展示する事が出来ました。両日、駐車場では教会の茶道会の皆さんのお点前で「野点」が催され、道行く人々が足を止められました。

二日目は「教会ミニコンサート」、資料委員の青木倫子さんのパイプオルガンと友人の入澤豊美さんのフルートの演奏。礼拝堂が満席になりました。

幼稚園の保存資料を閲覧

初雁幼稚園に関する資料は、教会の資料室に保存されている他、幼稚園内にも保管されてい



ます。6月4日の資料委員会の定例日、皆さんと一緒に幼稚園を訪問、園の諸施設を案内していただきました。園内の「フランシス館」に整然と保管された多くの資料類を見る事が出来ました。この様に、二カ所に保存管理されているこれらの資

料の扱いについては今後の課題のようです。当日のフィールドワークで教会から幼稚園に向かう途中の、市立中央図書館の前側。120年前にこの辺りに「宣教師の館」があった場所のようです。4人の女性宣教師の住居跡。当時、この家に信徒、日曜学校生、女学校、男子中学生等が集った宣教の中心場所でした。

そんな思いを馳せながら場所探しをしました。
(この項 次ページを参照ください)

マータン先生生誕150周年



1908年(明治41年)にアプタン宣教師と一緒に川越に来られたマータンさんは、フランス人の女医さん。アプタン師が来日以前、ヨーロッパ大陸巡遊旅行時、パリのマータン家に滞在、

以来の友人。川越在任中には、多くの病人を癒し、アプタン師と共に働きました。

特に明治末期の荒川大洪水の時の両氏の活躍は良く知られているところです。

来日8年目の1916年7月病氣にて逝去されました。41歳でした。東京青山墓地に埋葬されています。

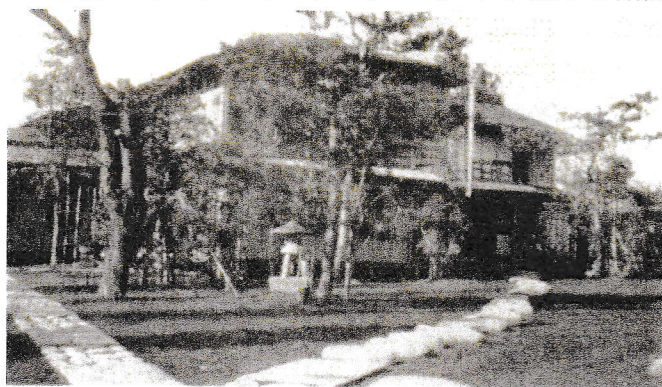
今年はマータン先生生誕150周年になります。



お 願 い コ ー ナ ー

この家を探しています・・・

今から120年前、この家に4人（2人ずつ交代で）の宣教師が住んでいました
川越で初めての町民となられた外国人 珍しがられ、時には敵意の目で見られました
やがて町の人々とも慣れ、この家に多くの方々が訪れ集い合いました
子供たち、女学生、男子中学生 英語を習い、ピアノで西洋の歌を唄いました
1908年（明治41年）前任の宣教師の交代の時、町民は歓送迎会を
川越会館で開きました 町の役人 各学校の教師 町の旦那衆
こぞっての参加 感謝の会となったようです （これに関する諸記録類が保存）



そこで、この家の所在地を探しています。

今、分かっている以下のヒントをもとに、かつてこの家があった場所の特定をする方法をお教えてください。（番地 土地家屋の所有者 現在の住居者 等）

- ① 川越市北久保町
- ② 家の前に大きな工場が出来た（旧石川製糸の川越工場とおもわれる）
- ③ 毎朝、女性の声がする（石川製糸の女工さん達か）
- ④ 敷地面積もかなり広い 川越城南門に近く 武家屋敷跡では、前庭も広く 飛び石に石灯籠がある
- ⑤ 宣教師が入居する際、ガラス窓、ストーブの設置をした模様

探す方法がありましたら教えてください